

岡山県感染症週報 2012 年 第 48 週 (11月26日～12月2日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 48 週 (11/26～12/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 47 週 2 類感染症 結核 3 名 (20 代 女 1 名、30 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
 第 48 週 2 類感染症 結核 1 名 (30 代 女)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157:30 代 男)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- 感染性胃腸炎は、患者がさらに増加し、県全体・岡山市・倉敷市・備前地域で発生レベル 3 になりました。
 ○インフルエンザは、県全体で 6 名の発生がありました。
 ○RS ウイルス感染症は、前週とほぼ同数でした。

【第 49 週 速報】






- 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O157:中学生 男 1 名、60 代 男 1 名、40 代 女 1 名) の発生がありました (12 月 5、6 日)。
 ○感染性胃腸炎による学年閉鎖が、玉野市の小学校 1 校、津山市の幼稚園 1 園でありました (12 月 5 日)。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 48 週に 1 名の発生があり、2012 年第 1～48 週までの累積報告数は 157 名になりました。腸管出血性大腸菌感染症は、夏に患者が増加しますが、冬でも感染の可能性がありますので、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週よりさらに増加しました (定点あたり 16.61 → 20.26 人)。患者は第 44 週以降急速に増加しており、全県での定点あたり患者数が 20.00 人を超え、発生レベル 3 になりました。流行は県全域に拡大しています。発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **インフルエンザ**は、前週より増加し (定点あたり 0.01 人 → 0.07 人)、県全体で 6 名の発生がありました。地域別、年齢別にも県内の発生はまだ散発的ですが、これまで発生のなかった備北地域からも患者が報告されています。手洗い・うがいなど自分でできる感染予防に努めましょう。県内の詳しい発生状況などは、「インフルエンザ情報」をご覧ください。
4. **RS ウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同様でした (定点あたり 0.91 → 0.87 人)。増減を繰り返しているものの、2003 年の調査開始以降最も多い状態が 9 月中旬頃からつづいています。地域別では美作地域 (3.33 人) で最も多く報告されています。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▶	★★★
咽頭結膜熱	▶	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▶	★
感染性胃腸炎	▶	★★★★★	水痘	▶	★★
手足口病	▶	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▶	★★	百日咳	▶	
ヘルパンギーナ	▼		流行性耳下腺炎	▶	★
急性出血性結膜炎	▶		流行性角結膜炎	▼	★
細菌性髄膜炎	▶		無菌性髄膜炎	▶	
マイコプラズマ肺炎	▲	★★	クラミジア肺炎	▲	★★

【記号の説明】 前週からの推移:

 : 2 倍以上の減少
  : 1.1～2 倍未満の減少
  : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加
  : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

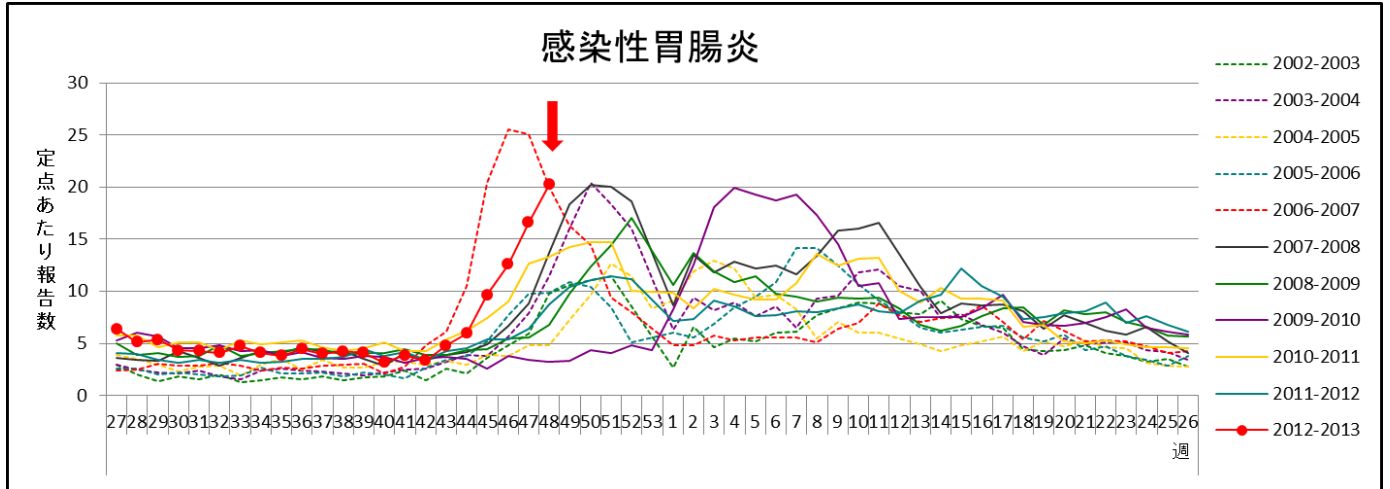
◎**感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど冬に流行がみられる感染症が増加しています。**
 うがい・手洗いなど感染予防に努めましょう。

感染性胃腸炎情報 2012 年 第 48 週 (11 月 26 日 ~ 12 月 2 日)

- 岡山県内の患者報告数は 1,094 名 (定点あたり 20.26 人) で、患者はさらに増加しました。(54 定点医療機関報告)
- 岡山県全体、岡山市、倉敷市、備前地域は、発生レベル3 になりました。

【第 49 週 速報】

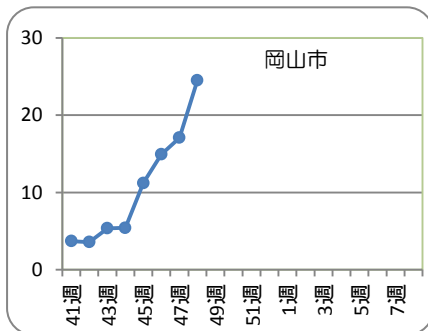
- 玉野市の小学校 1 校、津山市の幼稚園 1 園で感染性胃腸炎による学年閉鎖がありました。(12 月 5 日)



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

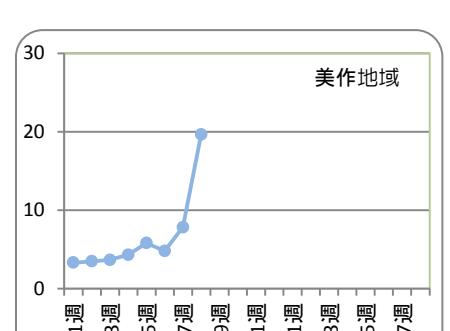
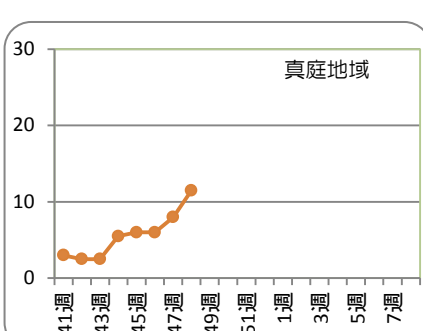
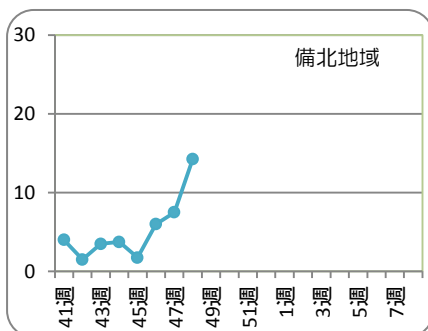
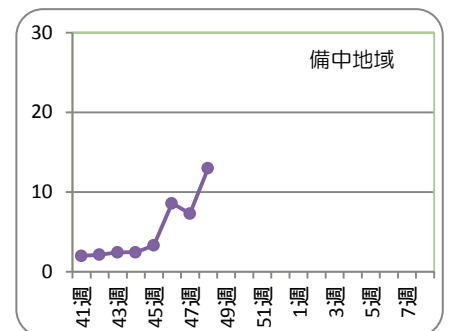
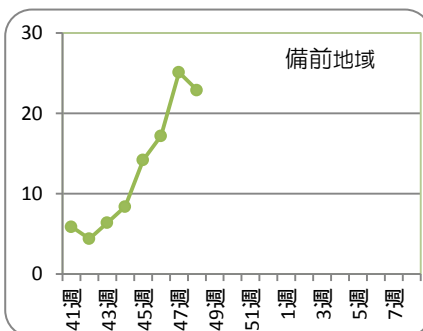
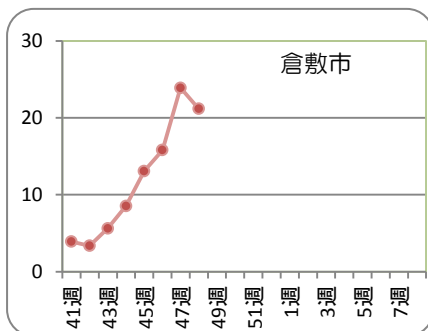
感染性胃腸炎は、患者数がさらに増加しました (定点あたり 16.61 → 20.26 人)。全県での定点あたり患者数が 20.00 人を越え、大きな流行が発生したと思われる発生レベル 3 になりました。定点あたり患者数が 20.00 人を越えたのは 2007 年第 51 週 (20.06 人) 以来のことです。

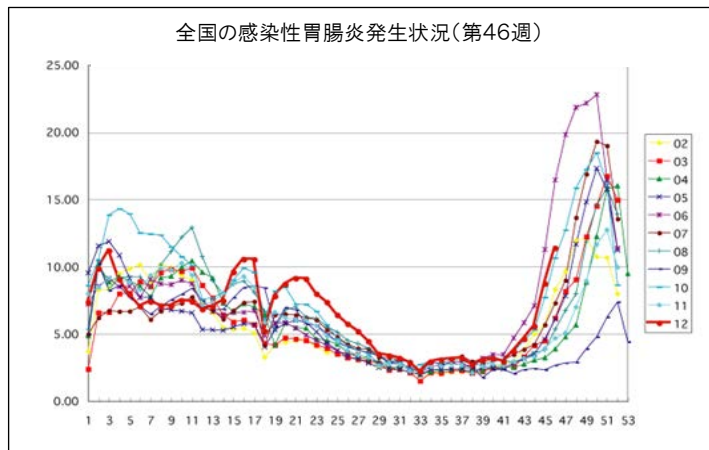
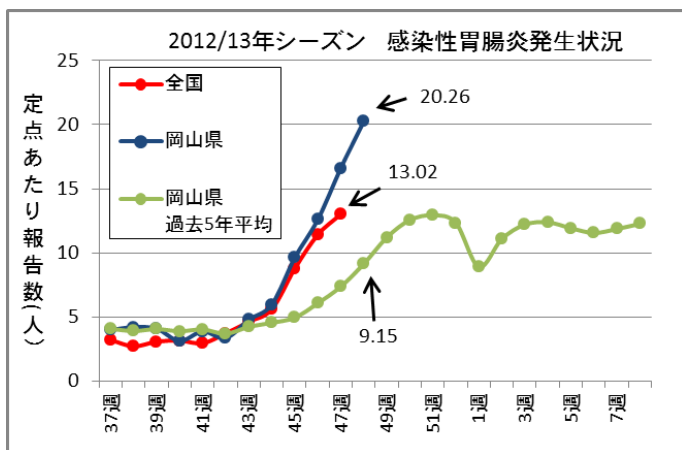
◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、多くの地域で患者が増加し、倉敷市 (23.91 → 21.18 人)、備前地域 (25.10 → 22.90 人) に加え、今週は岡山市 (17.07 → 24.50 人) も発生レベル 3 になりました。また、これまで県南を中心に患者増加が見られましたが、美作地域 (7.83 → 19.67 人) でも患者が急増しており、県全域で流行の拡大が見られます。

年齢別では、1 歳以下の乳幼児が 22% で最も多く、5 歳以上の幼児で 54% を占めています。また 20 歳以上の成人も前週の 13% から 16% に増加しています。





(国立感染症研究所HPより)

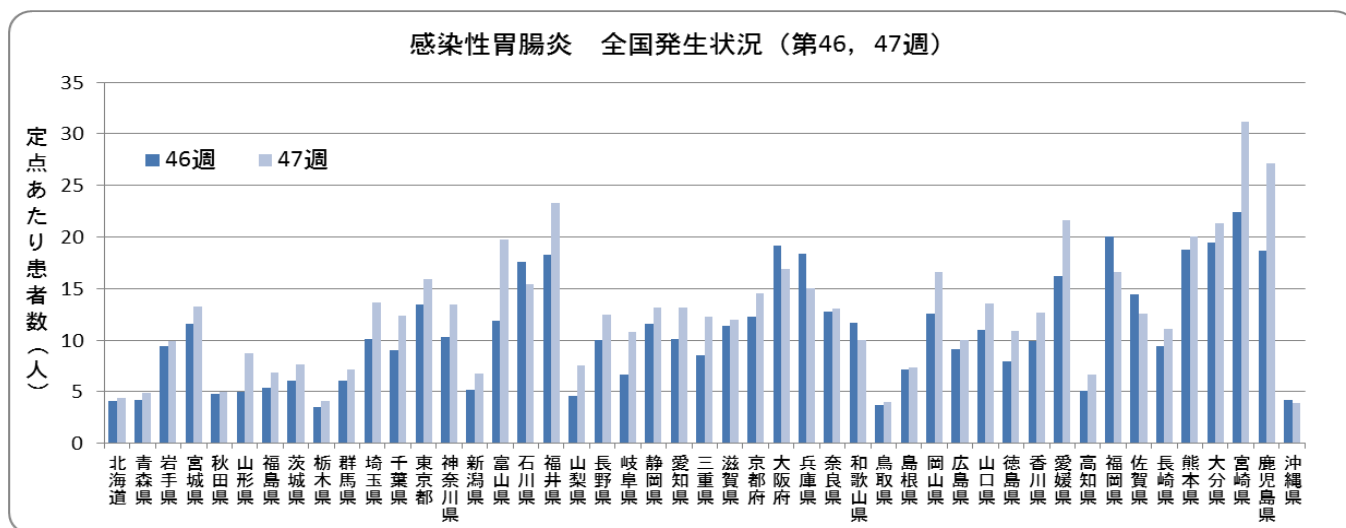
今シーズンは、例年に比べ流行開始の時期が早く、患者数も多くなっており、全国的にも同様の傾向です。学校や福祉施設、病院では集団感染も懸念され、第49週には学校の集団感染も報告されています。感染予防と、拡大防止に努めて下さい。

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行し、吐物や下痢便を処理するときは、処理する人自身が感染しないよう気をつけましょう。消毒には85℃で1分以上熱湯消毒するか、塩素系消毒液が有効です。アルコールは消毒効果が低いとされています。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

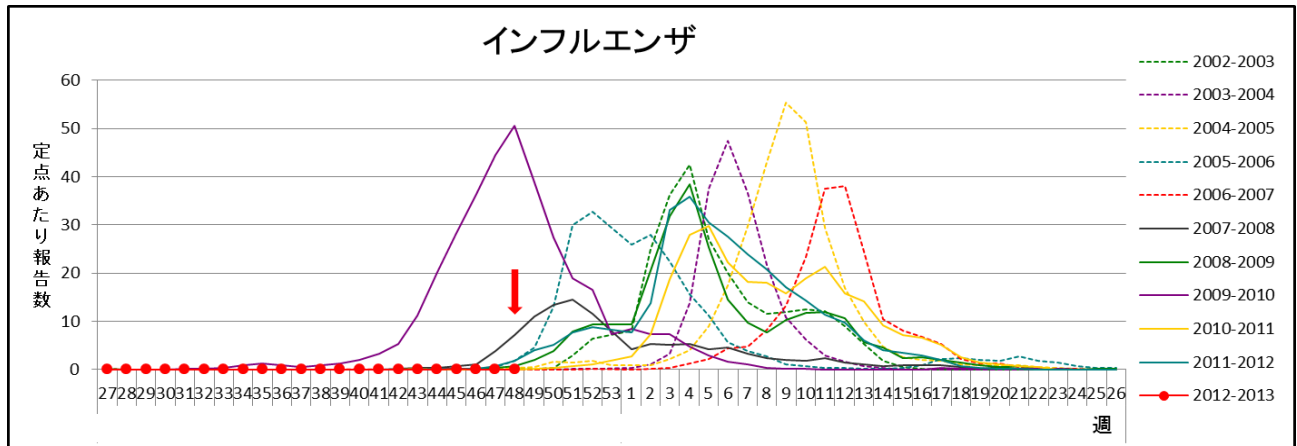
[注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)



インフルエンザ情報 2012 年 第 48 週 (11 月 26 日 ~ 12 月 2 日)

▶ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 6 名の発生がありました (84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザとみられる学校の臨時休業、インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、倉敷市で 3 名、備前地域・備中地域・備北地域で各 1 名の発生があり、県全体で 6 名の発生がありました (定点あたり 0.01 → 0.07 人)。患者の年齢分布は 1 歳、6 歳、10 歳代、20 歳代、40 歳代、80 歳以上で各 1 名が報告されています。地域別、年齢別にも発生はまだ散発的ですが、患者数は増加しており、これまで報告がなかった備北地域からも患者が報告されています。12 月に入り本格的な流行シーズンを迎えますので、手洗い・うがいなど、自分でできる感染予防を心がけましょう。

全国集計第 47 週 (11/19~11/25) 速報値によると、全国では定点あたり 0.22 人 (前週 0.14 人) であり、第 43 週以降増加が続いています。また、全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 86 件、AH1pdm09 型が 10 件、B 型が 4 件であり、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。

インフルエンザがうつらないようにするには

1. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・外から帰ってきたときには手洗いを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・普段からの健康管理も重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果があります。

2. 予防接種も重要です。

- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・流行するウイルスの型も変わるので、毎年、定期的に接種することが望まれます。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大切です。

- ・せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット*を行いましょう。
- ・同居する他の家族、特に重症になりやすいお年寄りなどにはなるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・家族が患者さんと接するときには念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。

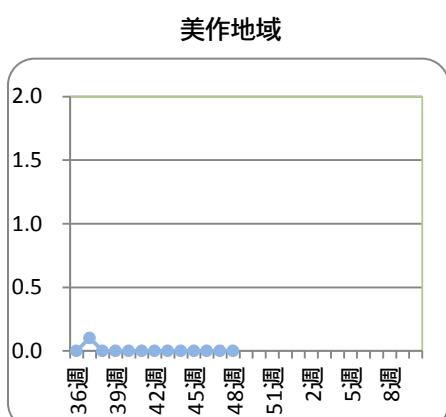
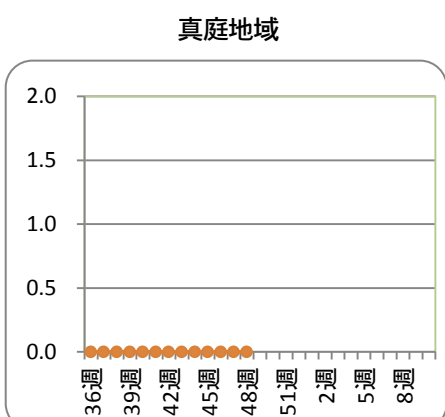
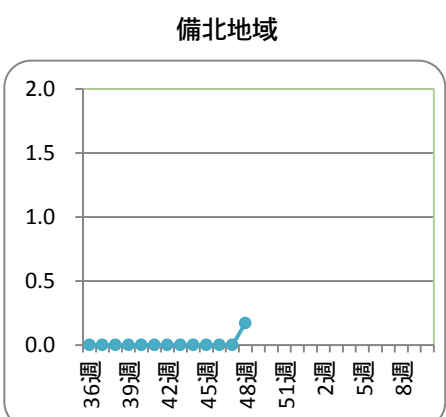
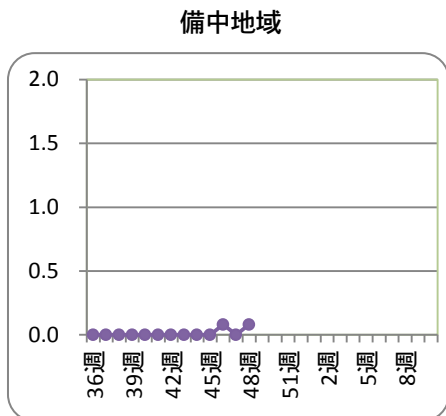
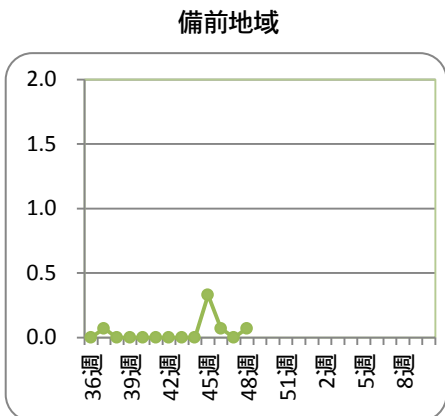
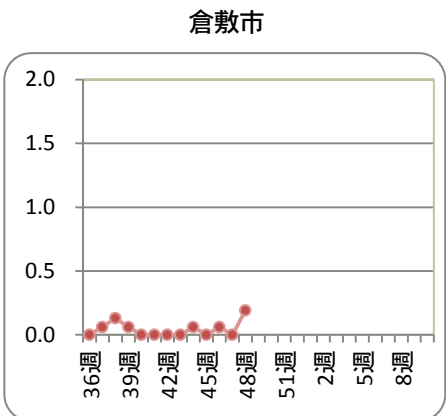
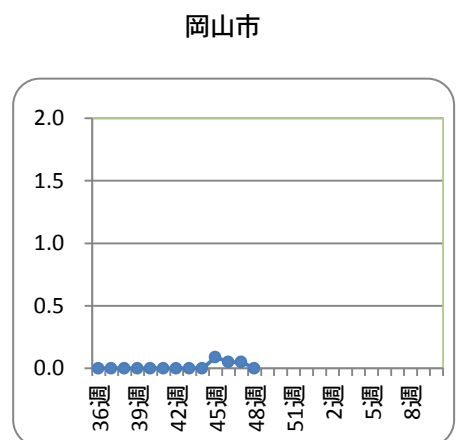
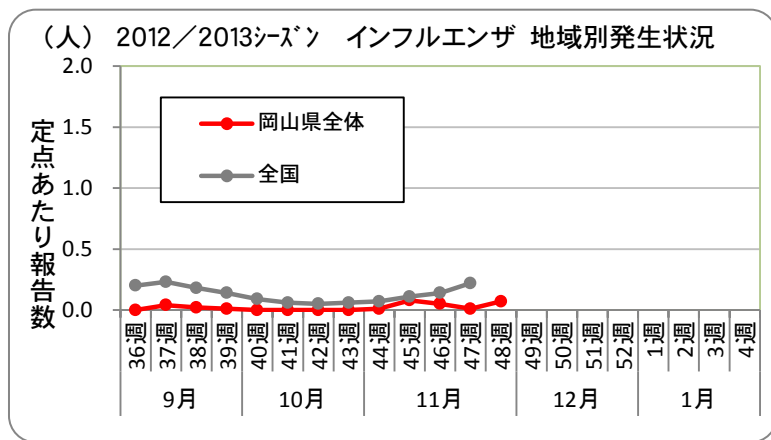
※せきエチケット：人に向かって咳やくしゃみをしてはいけないこと。とっさにせきやくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時はマスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

第48週(11/26~12/2) 前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
	患者数	定点あたり			患者数	定点あたり	
岡山県全体	患者数	6	↑	備中	患者数	1	↑
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.08	
岡山市	患者数	0	↓	備北	患者数	1	↑
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.17	
倉敷市	患者数	3	↑	真庭	患者数	—	—
	定点あたり	0.19			定点あたり	—	
備前	患者数	1	↑	美作	患者数	—	—
	定点あたり	0.07			定点あたり	—	

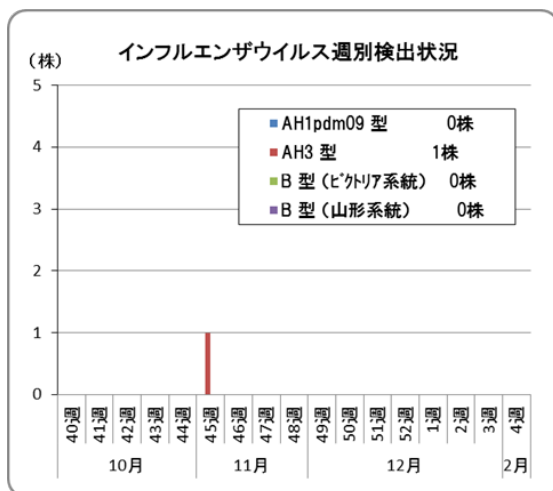
【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑ —:未発生



2. インフルエンザウイルス検出状況 第48週(11/26~12/2)

第48週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありません。

岡山県ではこれまでに集団発生事例から、インフルエンザウイルス AH3 型 1 株を検出しています。



3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第48週(11/26~12/2)

第48週、インフルエンザとみられる学校の臨時休業はありません。

1. 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
岡山市	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2. 臨時休業施設数の内訳

第48週：0施設

累計：1施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—

保健所別報告患者数 2012年 48週 (2012/11/26～2012/12/02)

2012年12月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	-	-	3	0.19	1	0.07	1	0.08	1	0.17	-	-	-	-
RSウイルス感染症	47	0.87	8	0.57	11	1.00	7	0.70	1	0.14	-	-	-	-	20	3.33
咽頭結膜熱	8	0.15	-	-	3	0.27	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	11	0.79	13	1.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	1094	20.26	343	24.50	233	21.18	229	22.90	91	13.00	57	14.25	23	11.50	118	19.67
水痘	61	1.13	31	2.21	17	1.55	3	0.30	2	0.29	2	0.50	5	2.50	1	0.17
手足口病	13	0.24	7	0.50	4	0.36	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	0.09	3	0.21	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	11	0.79	1	0.09	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	10	0.19	1	0.07	1	0.09	5	0.50	3	0.43	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	-	-	4	4.00	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 48週 (2012/11/26～2012/12/02)

2012年12月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	-	-	3	0.19	1	0.07	1	0.08	1	0.17	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	0.15	-	-	3	0.27	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	11	0.79	13	1.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	1094	20.26	343	24.50	233	21.18	229	22.90	91	13.00	57	14.25	23	11.50	118	19.67
水痘	61	1.13	31	2.21	17	1.55	3	0.30	2	0.29	2	0.50	5	2.50	1	0.17
手足口病	13	0.24	7	0.50	4	0.36	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	0.09	3	0.21	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	10	0.19	1	0.07	1	0.09	5	0.50	3	0.43	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第48週 2012/11/26~2012/12/02)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	6	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	1

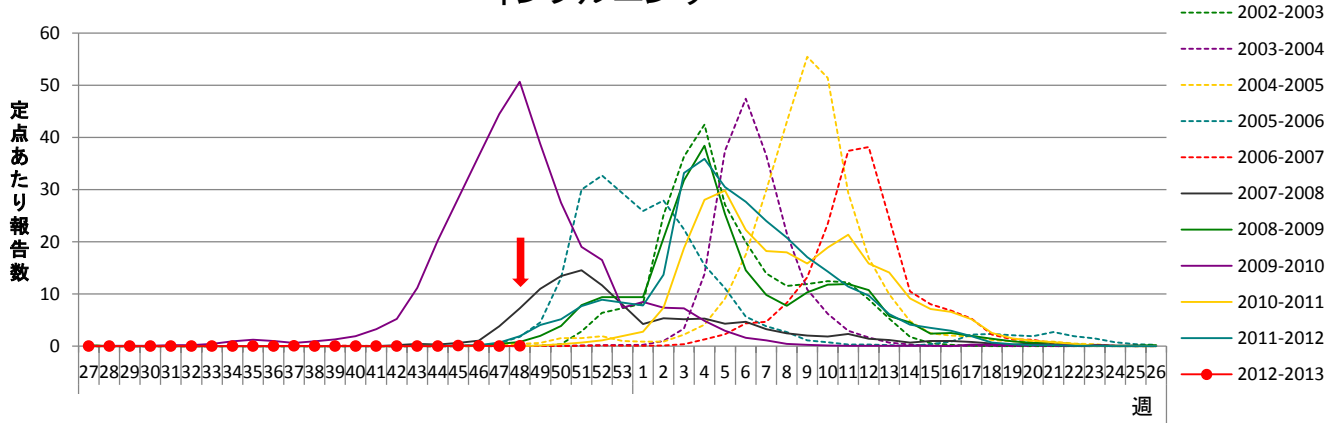
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	47	9	8	15	8	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	1	2	-	1	-	2	1	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	-	-	2	5	2	5	5	2	5	2	1	3	1	-
感染性胃腸炎	1094	9	55	181	113	87	96	76	77	47	35	31	90	27	170
水痘	61	1	4	15	11	16	2	8	1	-	1	-	2	-	-
手足口病	13	-	1	4	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	-	1	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	1	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	10	-	-	-	3	1	1	1	1	3	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-

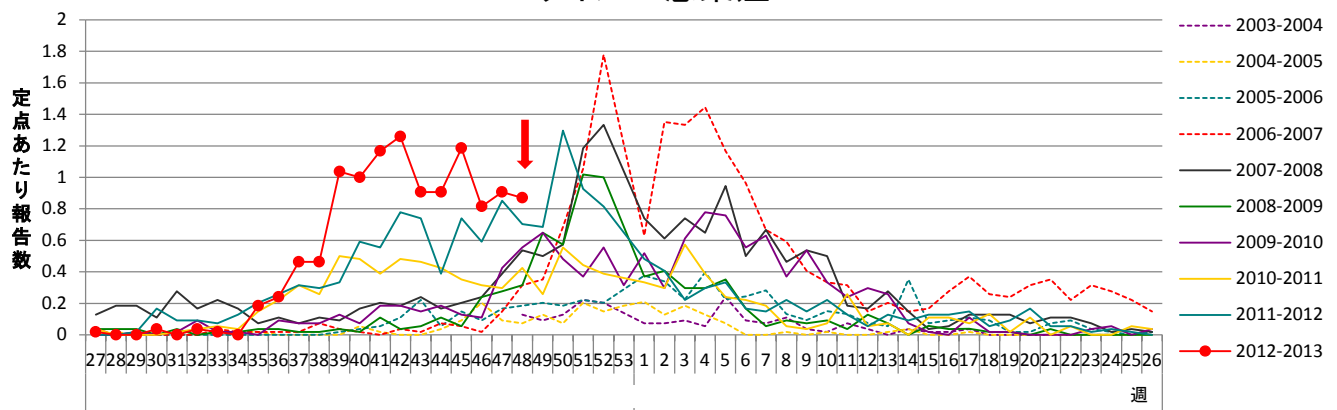
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	2	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1

(- : 0)

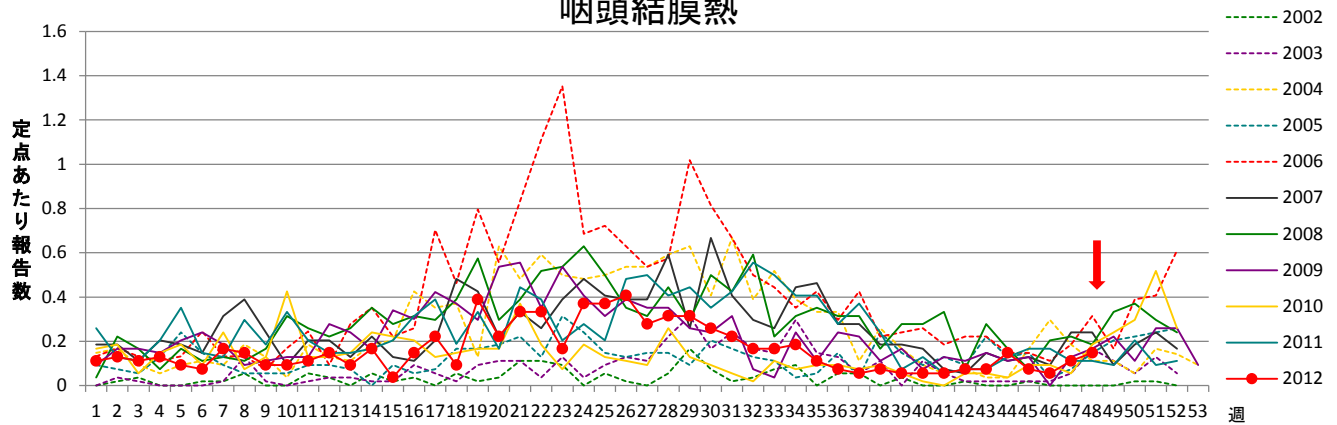
インフルエンザ



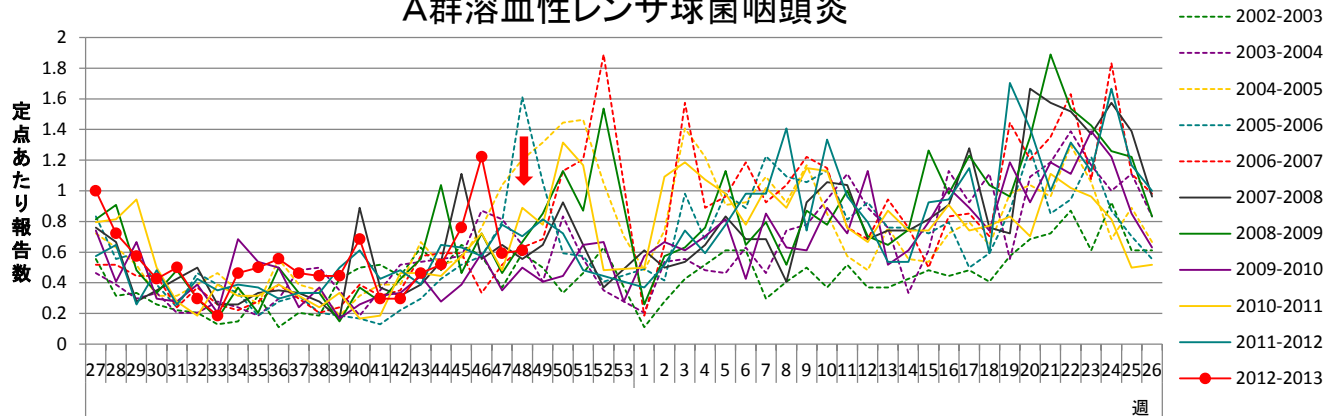
RSウイルス感染症



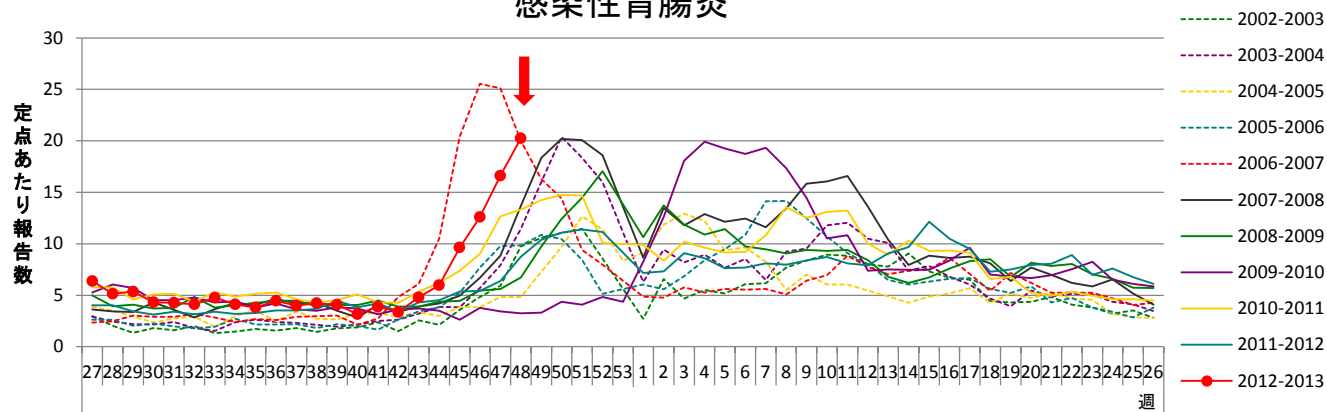
咽頭結膜熱



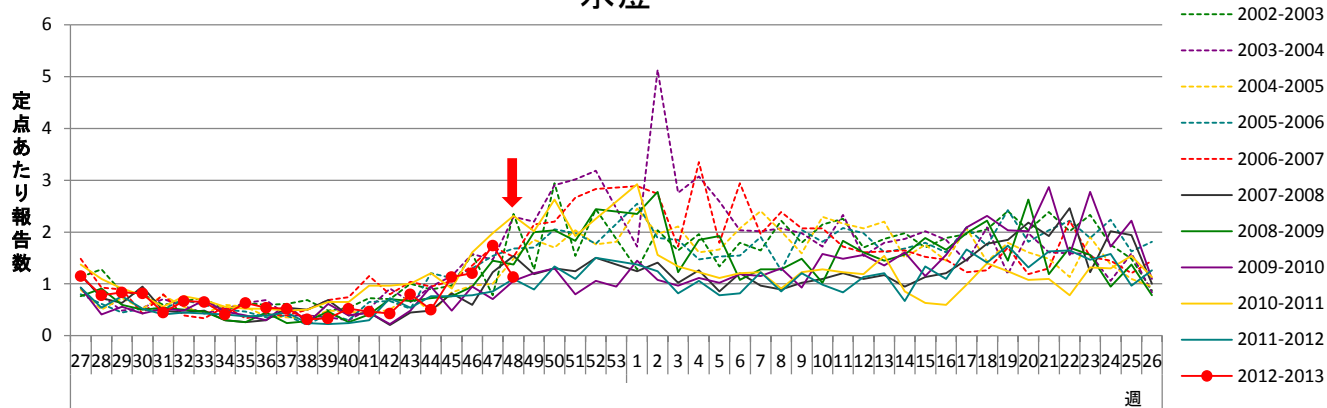
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



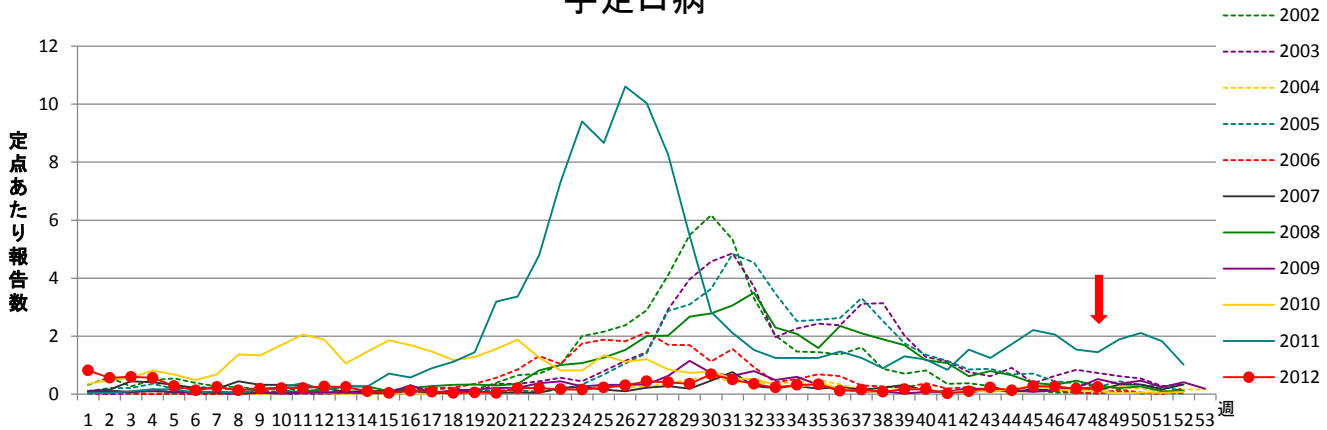
感染性胃腸炎



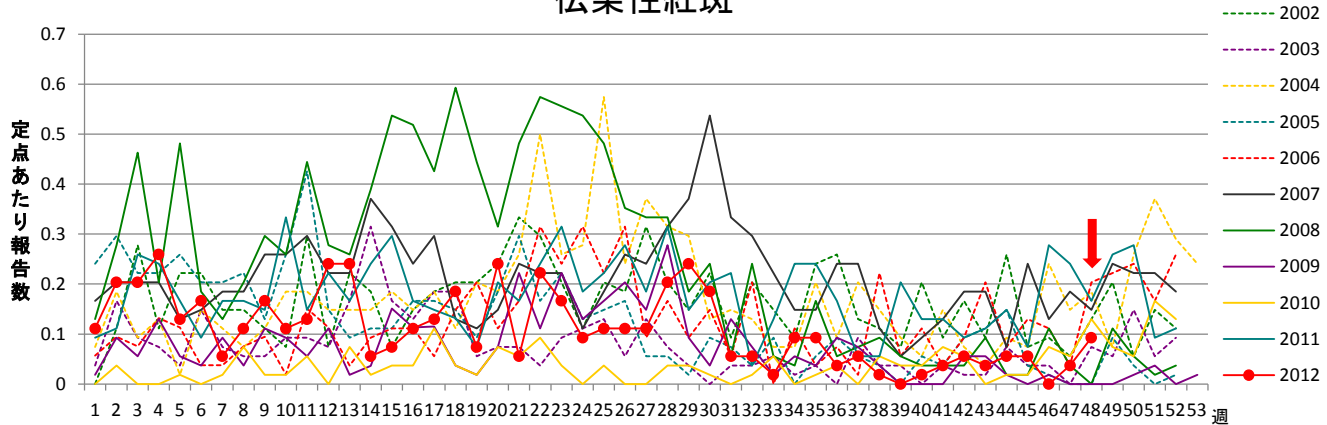
水痘



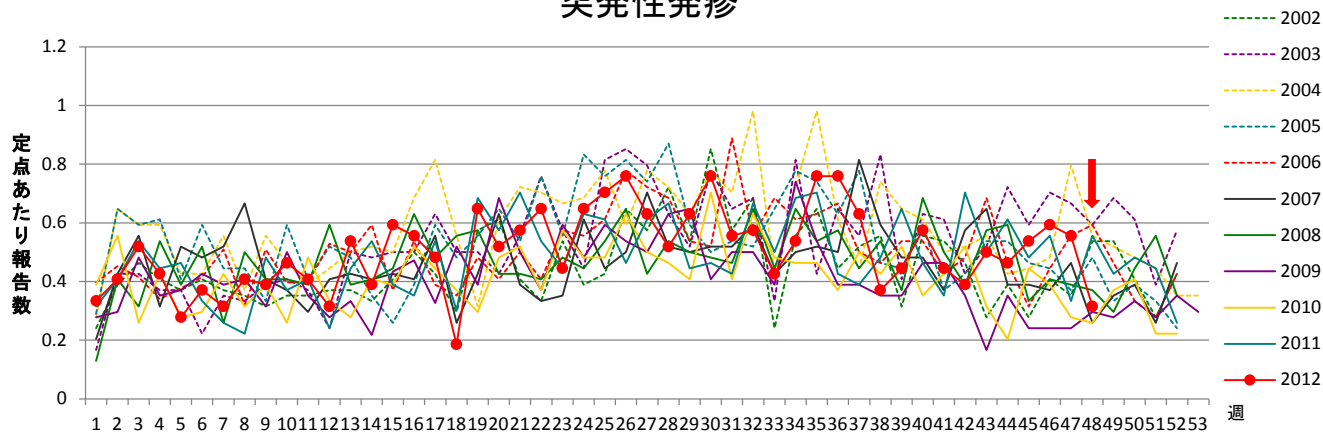
手足口病



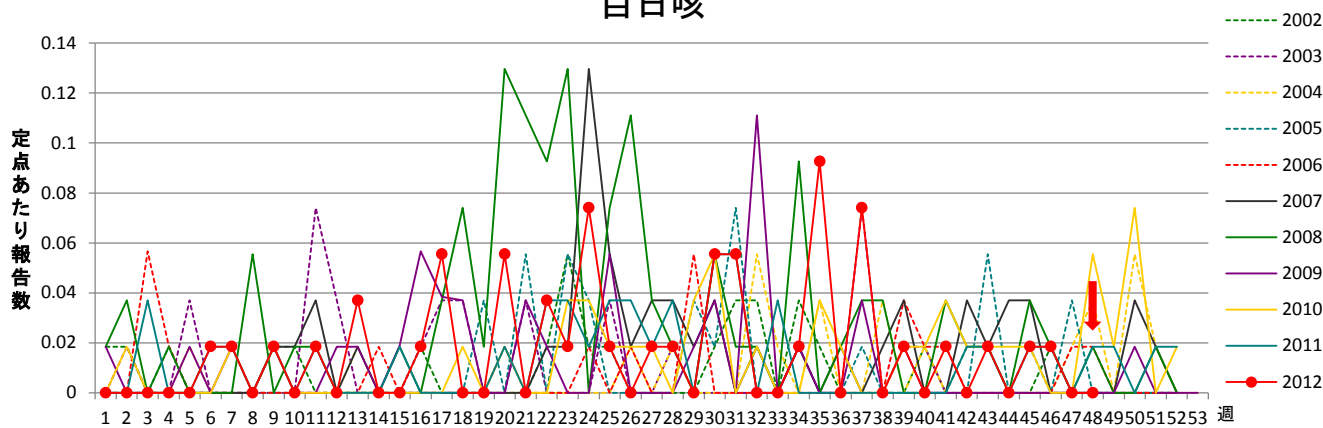
伝染性紅斑



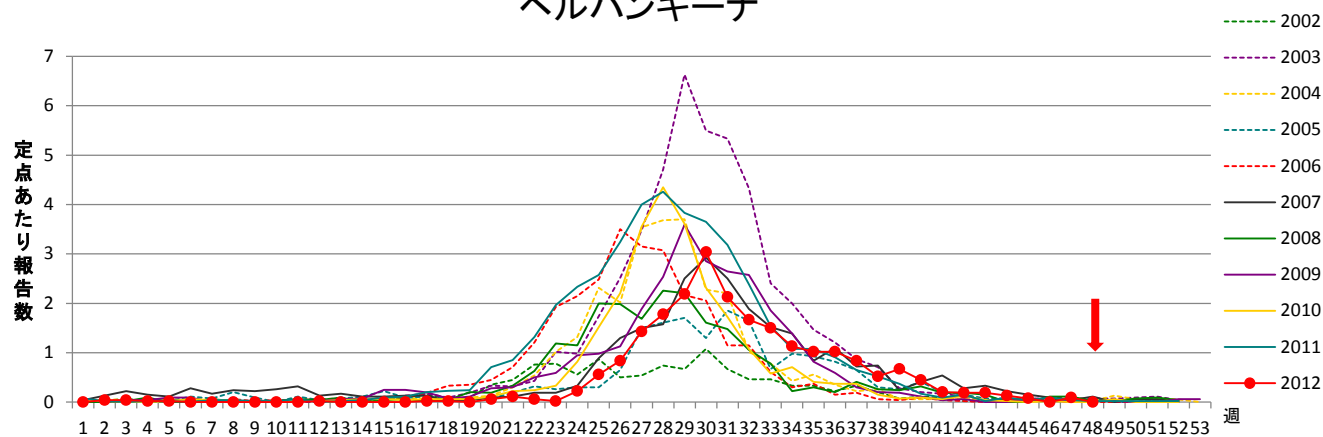
突発性発疹



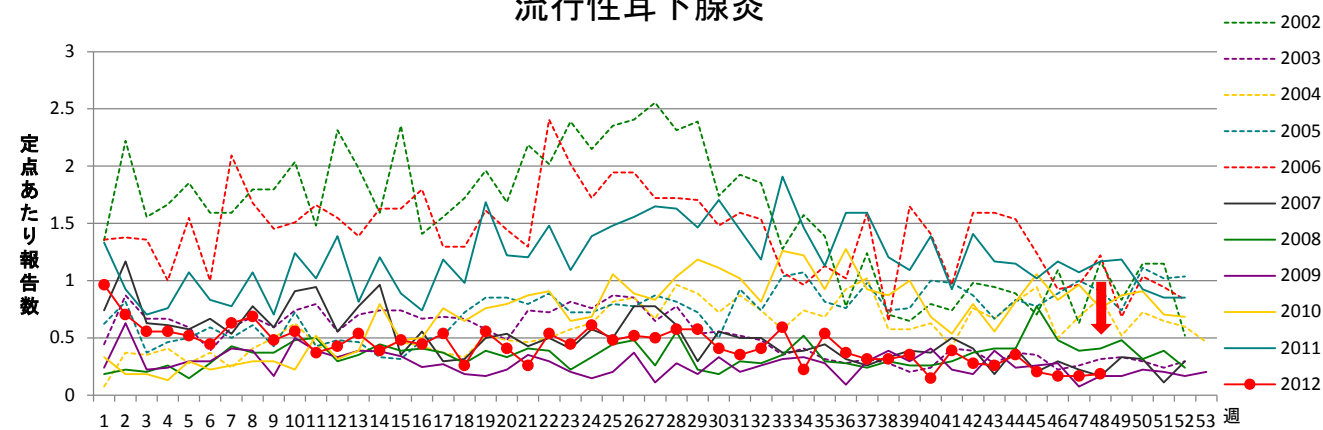
百日咳



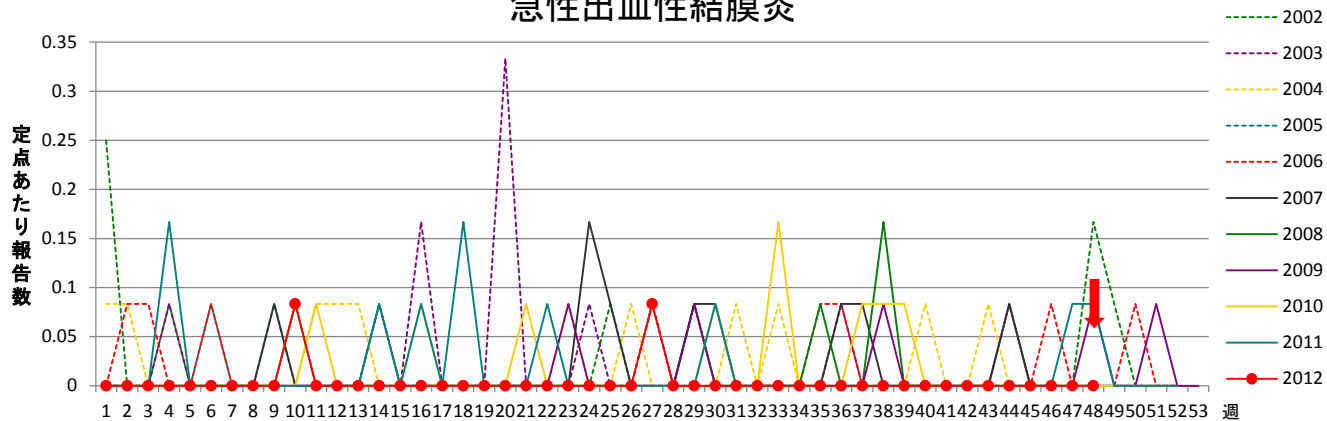
ヘルパンギーナ



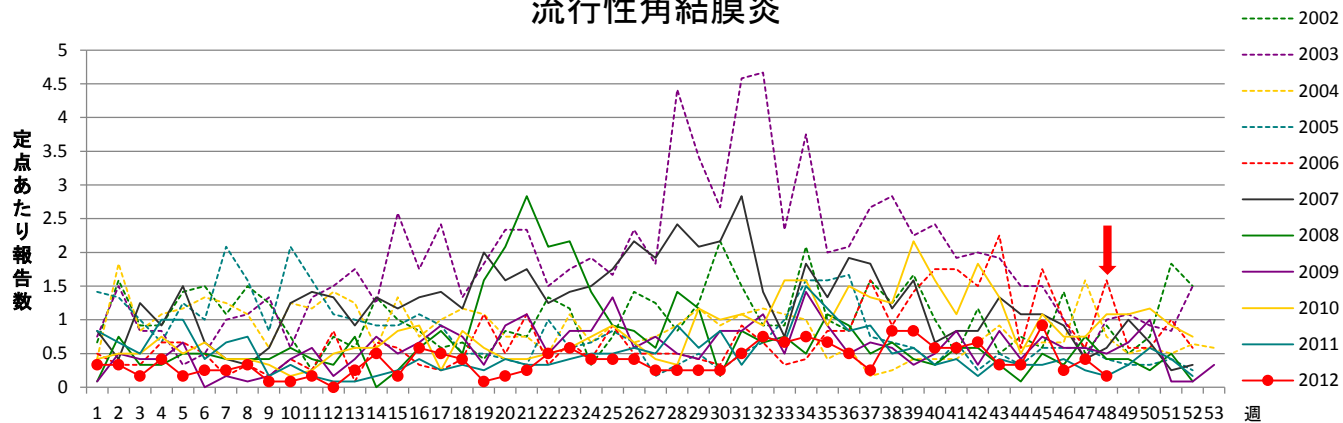
流行性耳下腺炎



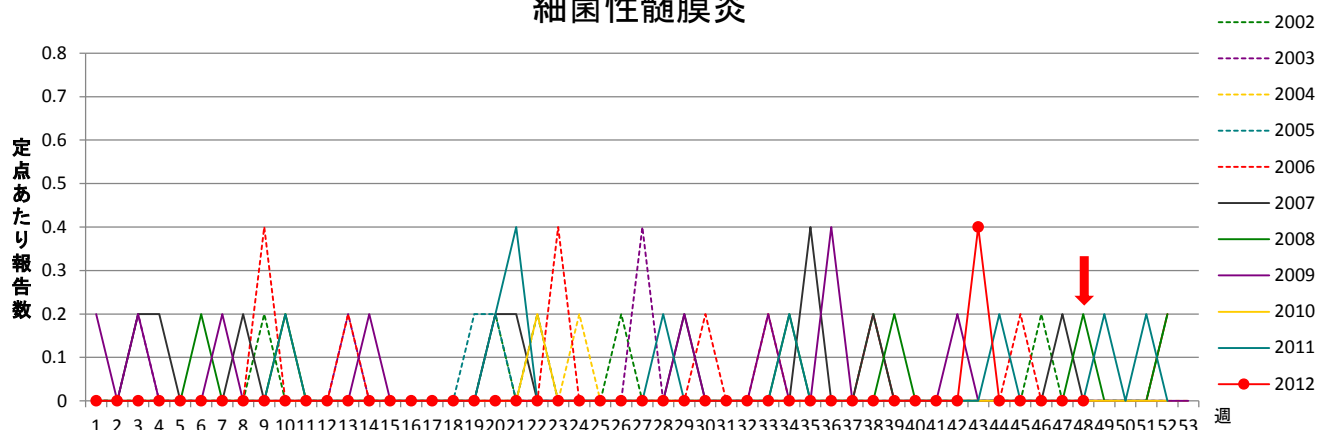
急性出血性結膜炎



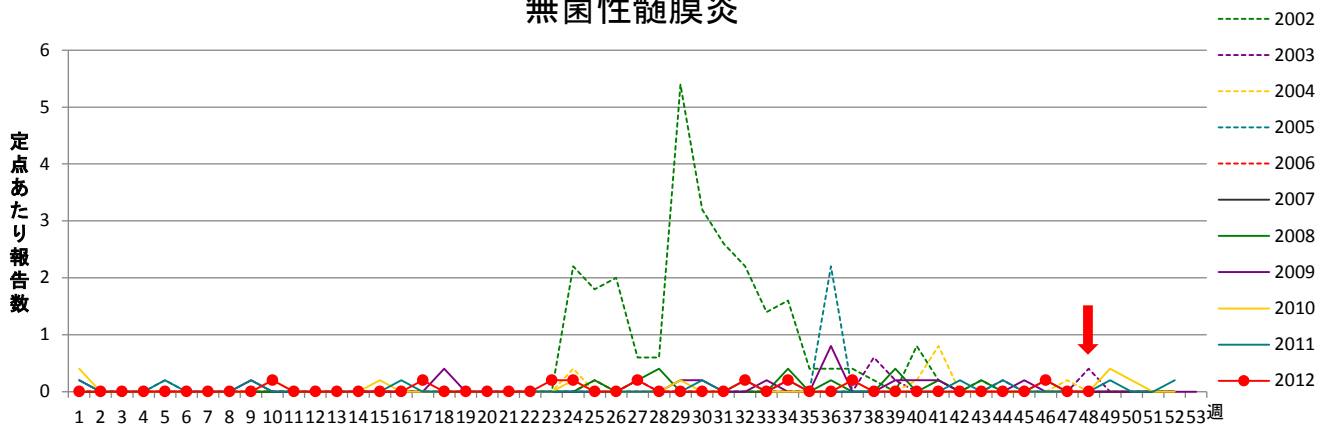
流行性角結膜炎



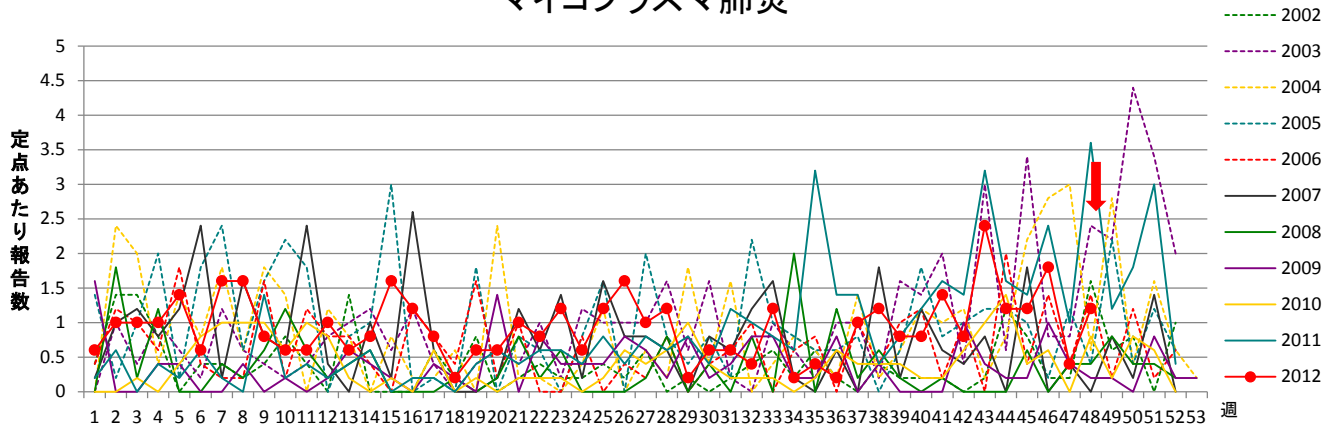
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

